第１回観測データ利活用検証 WG　議事概要

１　日　時　　令和２年９月 30（水）11:40～12:00

２　場　所　　総務省第二庁舎　７階小会議室

３　出席者

・構成員　　水野　貴之（国立情報学研究所）　　：主査

佐藤　彰洋（横浜市立大学データサイエンス学部）

竹内　渉　（東京大学生産技術研究所）

石田　中　（ＪＡＸＡ　第一宇宙技術部門）

・協力府省　　国土交通省国土地理院

・事務局　　総務省政策統括官（統計基準担当）室付　統計委員会担当室

総務省政策統括官（統計基準担当）室付　国際統計管理官室

４　議　題

（１）　構成員顔合わせ

（２）　ＷＧの進め方に関する議論

① 検証に使用するデータ

② 検証方法及び役割分担

③ スケジュール

５　配付資料

・ＳＤＧ15.4.2(山地植生被覆指数）の試算について

６　議事概要

（１）　構成員顔合わせ

（２）　ＷＧの進め方に関する議論

主な意見は次の通り

① 検証に使用するデータ

・ＷＧでは、ＪＡＸＡの算出の妥当性（算出値に問題がないことを確認する若しくはよ

り良い結果を算出していく等）を確認する形で進めていきたい。

・KAPOS１～６の精度を上げていくためにも、標高、水田など各省庁横断的に連携してデータを収集・整理していく必要があるのではないか。

・JAXA 高解像度土地利用土地被覆図データの分類には湿地がない。水田と湿地の区別はつかない（技術的に困難）からだと思われるが、現行の産地分類では算出しないことになる。湿地は面積としては小さいが、生物多様性の観点からそれを測定しないことが妥当なのか疑問がある。メタデータになぜ湿地が含まれていないのか、確認する必要があるのではないか。

② 検証方及び役割分担

・我が国のデータ活用に当たり、ＦＡＯが利用しているデータの精度との違いにより、各国比較の観点からどこまで影響が及ぶのかを確認する必要がある。特に、精度を落とした時の結果への影響を考慮しないといけない。必ずしも高い分解能が良いとも限らない。

・IPCC 分類マトリクスが評価のポイントになるのではないか。面積と％を掛け合わせたものの積み上げになっている。分類、面積、％の関係を明らかにすることが検証のポイントではないか。面積、％のウェイトが大きい区分５及び６が MGCI all へ大きく影響するはずである。また、面積の小さな MGCI の誤差影響についてもこれらの内容をきちんと検証し、影響度合いを精緻に測っていきたい。

・空間解像度の課題がある。土地利用の状況は１０ｍ、３０ｍで把握できるが、メタデータにある３００ｍに落としてサンプリングをする際、やり方によっては結果がそれぞれで作成しておいて、その中から我が国の算出値として何を選択するかと言うことになるのではないか。

③ スケジュール

・本年度内に何回開催できるのか確認したい。ＪＡＸＡとしては可能な限り多くの指標を検討していきたい。指標 15.4.2 をまとめつつ、他の指標の作業も並行で検討を進めていきたい。

・都合がつけば複数回の開催は可能。ただ、他の指標の場合、検証レポートを作成して

いただく先生も異なると思われるため、要相談となる。次回の会合は 10 月の早い段階で連絡をさせていただきたい。